

ProMED-mail 情報 2018年10月版

ProMED-mail <https://www.promedmail.org/> の記事から、感染症業務関係者の皆さまにピックアップ記事を紹介します。FORTH（厚生労働省検疫所の情報提供サイト <https://www.forth.go.jp/>）に掲載されるものは省略しています。

編集：厚生労働省福岡検疫所

掲載日	表題	概要
24日	クリミア・コンゴ出血熱(CCHF) パキスタン	カラチにあるジナ・ポスト・グラデュエイトメディカルセンター(JMPC)で2例のCCHF患者が報告されている。ウイルス陽性者はmalirに在住、現在危機的状況であり、隔離病棟で治療中。患者は牛飼いであり、動物接触歴あり。もう1例はJMPCで治療中であり、状態は安定している。CCHFは、家畜からダニを媒介として伝播し、致死率40%。シンド州健康省は2018年これまでにカラチではCCHFによる死亡者を11名、その上100人以上の陽性反応者を認めているとしている。
21日	サルモネラ感染症 米国	ワシントン保健省は6例のサルモネラ感染症に関して、州、地元、連邦の公衆衛生部と共に調査中。最後の報告は9月15日。6例のサルモネラ菌は同じで、6人のうちの5人は、ワシントンのコストコの各店舗からイギリス産キュウリを買って食べたとの報告。2018年8月18日から9月10日の間でコストコでイギリス産キュウリを買って、まだ冷蔵庫に保管されているならば保健省はそれらを破棄することを推奨。
20日	マラリア ベネズエラ	ベネズエラの医療組合長によると、2018年医薬品不足のためマラリア患者が増加しており、患者は5万人以上。ベネズエラはマラリアが最も増加している国であるとWHOより報告。2016年、公式には患者24万5千例と死亡1例としているが、WHOは少なくとも患者30万例と死亡280例と推測。WHOは2017年、少なくとも40万6千例のマラリアが発生したと報告。2018年マラリア患者の減少の見込みはない。
17日	コレラ ヒスパニオラ島	2017年ヒスパニオラ島で13,803例のコレラ疑い症例が報告された。ハイチ13,681例、ドミニカ共和国122例、そのうち4例は死亡。2018はこれまでに、ヒスパニオラ島で3,224例の報告があった。
15日	麻疹 イスラエル	カイク・クーニック師は、麻疹と診断され重症ウイルス性肺炎を併発し、病院に入院。師はウーマン(ウクライナ)を訪問しイスラエルへ帰国後、麻疹に罹患。イスラエルの保健省はウーマン渡航者に麻疹感染の可能性を警告。保健省はワクチン接種を推奨しているが、未接種の子どもも多く、麻疹復活の予兆。ペタティクワで今年最多53例、次にツファットで43例、テルアビブで22例、エルサレムで20例の麻疹が報告された。
13日	エボラ出血熱 コンゴ共和国	北キヴとイトゥリ州の地方のエボラ・ウイルス性疾患の疫学的状況報告。出血熱の合計207例が報告された。170の確定例のうち、95例は死亡。そして、54例は回復し、残りはエボラ処置センター(ETCs)に入院中。
11日	チクングニア熱 スーダン	カッサラ州(スーダン)におけるチクングニア熱発生に関する報告によれば、23%の発生増加を確認。カッサラ州政府は、先週10,900人の感染者を報告しており、ごく最近の集計では、13,400人。臨床徴候において Dengue 熱とジカ熱と共有しており、誤診されることがある。治療法はなく、処置は対症療法となる。
9日	風しん 日本	2018年、日本(関東圏を中心)で風しん患者が増加し、患者数は去年の約8倍。患者は、ワクチン未接種である30代と40代の男性。2012-2013年の日本での風しん大流行では、14,000人以上の患者、40人以上の先天性風疹症候群を認めた。日本への渡航前に風しんの免疫状態を確認しておくべきである。
8日	肝炎 パキスタン	パンジャブ地方で黄疸患者が増加している。病院の医師は黄疸患者3名が入院したと発表。1名は悪化し死亡。2018年に人々の命を奪った黄疸で、この地方はひどく影響を受けた。都市の異なる病院から集められたデータより、多くの高齢者と子供たちが致命的な病気にかかったことが分かる。地下汚染水と浄水処理施設が影響していると考えられる。
5日	腸管出血性大腸菌 イギリス	一家族から子供2人が腸管出血性大腸菌と確認され、2週間治療を受けたが死亡した。溶血性尿毒症は重篤な合併症である。発熱はしないが、軽度から重篤な出血性下痢を認める。感染ルートは汚染食品であるが、今回の感染源は未だ分かっていない。
3日	鳥インフルエンザ(H5N6) 中国	香港の保健省健康防御センターは広東省でH5N6型インフルエンザ患者を確認。患者は22歳男性、9月25日発症し26日に入院。現時点での病状は極めて重い。発症前に家禽との接触あり。2014年からこれまでH5N6型インフルエンザは21人と発表している。